IBULIVE いぶりぶ

いぶり+Live

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 泌尿器科・血液透析 広報誌

夏 号 NO.38 季刊誌

技士長としての抱負

臨床工学技士長 **重山　龍二**

本年4月より、いぶり腎泌尿器科クリニックの臨床工学技士長を務めることになりました。何分未熟な私ですが技士長という重責を全うするため、今後さらに精進し誠実に職務と向き合い、皆様の期待に応えるよう精いっぱい頑張る所存でおりますので、よろしくお願い申し上げます。

坪院長はじめ、諸先輩皆様の教育のもと、私は臨床工学技士の一員として当院で成長してきました。開院より勤め始めたころは、私が最年少で3名からスタートしたのですが、13年目となった現在では6名に仲間が増え、最年長でスタッフを抱えることの責任の大きさを日々痛感している毎日です。

私を含めた当院の臨床工学技士の平均年齢は、28歳と非常に若いチームで、まだまだ発展途上にあるチームです。若さゆえの失敗や苦労もありますが、有り余るエネルギーをもって、当院のモットーである「地域に根ざしたフットワークの良い医療、患者様を診させていただく医療」を実践させていきたいと思っています。

私たちは「技士さん」と呼ばれていますから、業務内容は医療機器の操作や、保守管理など、機械を扱う職種との印象が強くなりますが、あくまでも私たちが診ているのは機械の先にある患者様です。ですから「見る」ではなく「診る」ということなのだと強く感じています。

透析を受けられる患者様に対し、安心した医療が安定的に提供できるよう、知識や技術の向上はもとより、技術の進歩にも素早く反応していくことを目指し、日々の業務を行っています。他にも私たちは、長期使用してきた透析装置や医療機器の保守管理業務の増加や個々の患者様に適したダイアライザー（透析器）の選択、昨年より導入した水処理装置の管理体制の見直し、災害時操作の指導や新人教育への新たな取り組みなど、患者様に直接関わらない部分でも努力を重ねています。また、そういった努力の積み重ねが、患者様の満足度アップにつながると考えています。

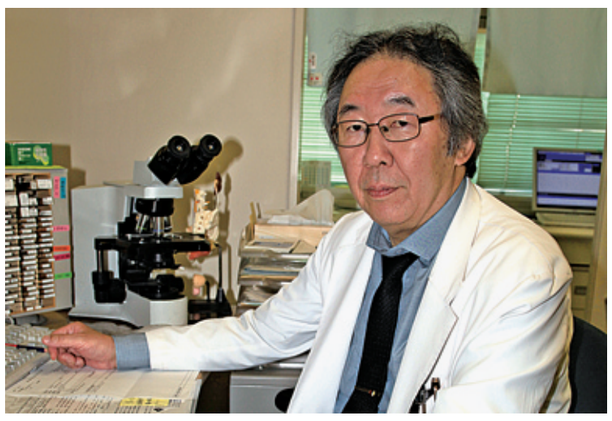
業務量やその範囲も着実に拡大しつつある現状にあって、業務の質を落とすことだけは絶対にできませんし、一番してはならないことと認識しています。この相反する事柄を克服し、今後も患者様への質の高い医療を持続的に提供し続けるためには、人材の育成が非常に重要だと考えています。当院のような地方都市にあるクリニックでは、若者は貴重な人材ですから、教育体制を整え、個々の能力にあった業務を担当してもらい、それぞれが責任とやりがいを感じる適材適所の業務体制を構築することで、当院の人材確保の一助となり、今後の業務運営の中核になってくれることを期待しています。

最後になりますが、私自身にとっても今年度がチャレンジの年となります。改めて周りの期待に応えられるよう、精いっぱいやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。クリニック関係者の皆様をはじめ、患者様皆様の変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げ、技士長就任の抱負といたします。

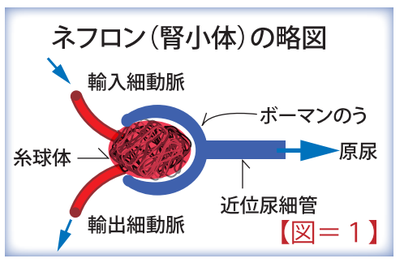
坪院長の健康講座

腎臓の働きと腎不全（腎機能障害）について

院長 坪　俊輔

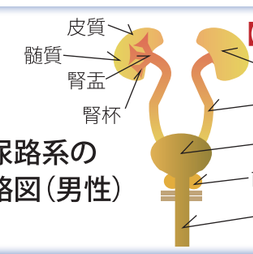


今回は腎臓の働きとその機能障害（腎不全）についてお話しします。腎臓は図―1に示すように左右で約200万個あるネフロン（腎小体）という基本単位から成り立っています。血液は糸球体を通過することではじめて濾過作用を受け原尿となり、その後尿細管を通過して様々な物質の吸収、排泄をへて最終的に尿となり、集合管という所から図―2に示すような体外に排出される尿路系へ流れ出ます。

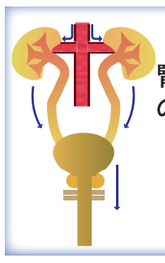


【図＝1】

腎臓の働き 【表＝1】
①体内の老廃物を尿中へ排泄
②体内の水分量の調節
③体内の電解質濃度の調節
④体内のphの調節
⑤血圧の調節（レニンの分泌）
⑥造血ホルモンの分泌
⑦活性型ビタミンDの分泌（骨生成に関与）



【図＝2】


【図＝3】
腎機能障害（腎不全）の原因（障害部位）
①腎前性腎不全
②腎性腎不全
③腎後性腎不全

腎臓の働きをまとめると表―1のようになり、身体にとって非常に大切な様々な働きを担っている事がわかります。これらの働きが低下すると腎機能障害さらには腎不全に至ります。腎臓は図―1のようになります。腎機能障害を原因別に分けると図―3のようになります。腎前性腎不全は、例えば大量出血や敗血症によるショック状態、心不全などにより腎臓に充分な血流が行かなくなるのが原因のひとつです。透析療法が必要となる慢性腎不全の殆どが糖尿病性腎症や慢性腎炎、のう胞腎などによる腎性腎不全です。腎後性腎不全は尿がきちっと作られているにもかかわらず、例えば前立腺肥大症などによる慢性尿閉が原因で腎臓が腫れて腎不全になった状態です。

腎機能障害を病型でみると、急性と慢性に分けられます。急性腎不全は大量出血や敗血症に続発する場合が多く状態も非常に厳しいのですが、透析療法を併用した全身管理で完全に回復する症例も多く経験します。

一方慢性腎不全は当初殆ど自覚症状がなく、またいったん発症すると完治は困難で、投薬や体調管理により進行をなるべく遅らせる保存的治療が主体となります。

次号では透析療法を含め、慢性腎不全の治療についてお話しする予定です。

＝以上＝

新人スタッフ紹介

熊谷　和男 透析室看護師　培った経験を活かしたい…

看護師キャリアは今年16年目、室蘭市内の総合病院で手術室看護の経験が長かった。縁あって7月1日から、当院の透析室看護師として勤務することになりました。出身は室蘭市、地元の小・中学校を経て緑丘高から室蘭の看護学校へ進学、看護師の道へ歩みだし現在に至ります。

見るからに温厚そうな人柄は、「学生時代から友人らとの会話が楽しくて仕方なかった」というほどの豊かな社交性にあるよう。釣りやウオーキングが趣味という、アウトドア派の一面もあります。

透析看護の経験は皆無で「慌ただしい毎日です」と率直な感想も、「何とかついていき確実な仕事を」と積極的。「前職で培った経験を活かし、周囲のお役にたてるよう頑張りたい」と意欲的な姿勢で日々の業務に励んでいます。

根上　豪 病棟看護師　一通りこなせる看護師に…

伊達で生まれ育った根上看護師は、中学時代に知り合いの誘いで看護師に興味を持ち、高校卒業後帯広市の看護学校に進学した。余市を振り出しに札幌の病院でも経験を積み、7月から当院へ。

伊達中時代から吹奏楽に魅了され、アルトサックスを中心に演奏、現在は地元の伊達吹奏楽団のメンバーとして活躍する。大谷室蘭高時代は東日本大会にも出場、全国2位の成績も収めた実力派だ。家庭では二児の父親で、子どもと遊ぶことを何よりの楽しみにしている。

泌尿器科の看護経験はなく、現在は実務習得のため悪戦苦闘中の毎日で、「火を噴くような忙しさです」と笑って見せた。「早く現在の環境に慣れ、職場の皆さん、患者様のお役に立ちたい」と、一通りこなせる看護師を目指し頑張っています。

森川　夏和 事務部医事課　安心感を与えられる接遇を…

4月11日から仲間入りした森川さん、名前の夏和は「かな」と読みます。文字の雰囲気通り、和風で落ち着いた感じが漂います。生まれは十勝の本別町で、父親の転勤で中学生のとき伊達市に移住、野菜が美味しく温暖で、雪が少ない伊達が気に入っているそうです。

職場は年齢が近い同僚が多く「親しみやすい」というのが感想です。上記の根上看護師と同じく、伊達中・大谷室蘭高と吹奏楽に親しみ、バストロンボーンを担当していたそうです。現在は演奏する機会がありませんが、復帰したい意向はあるそうです。

病院の表看板となる窓口業務、対応次第で印象が変わるポストで「患者様に安心感を与えるようになりたいです」と、笑顔を見せていました。豊かな響きを支える中・低音部を担ってきた奏者感覚で、優しく患者様を迎えます。

渡部　英美 透析室看護助手　可愛がってもらえる看護助手に…

やや早口もテンポ感が心地よく、嫌味がない渡部看護助手。伊達西浜で生まれ育ち、幼いときから「じいちゃん、ばあちゃんが好きだった」といい、その感覚から医療系に興味を持つようになったという。前浜を駆け回って遊んだ元気な少女が、そのまま大人になった感じがする。

当院は6月からの勤務で、「希望だった医療系での仕事が楽しい」と前向きな感想。「周りの方々のサポートで頑張れます」と元気よく答える。接客業務での経験を活かし「患者様とも積極的なコミュニケーションを図りたい」「何人かの患者様に覚えてもらえた」と嬉しそうに話す。

「いろんなことを、いっぱい学びたいんです」と目を輝かせ「患者様に可愛がってもらえるよう頑張りたい」と続けた。盛り沢山の目標を掲げ、全力投球で頑張る19歳！

医療法人 社団 泌尿器科・血液透析 いぶり腎泌尿器科クリニック

http://www.ibujin.com

河野久仁美師長

塩田裕美さん

勤続10年表彰

いぶり腎泌尿器科クリニックは、本年勤続10 年を迎えた河野久仁美師長と塩田裕美さんに感謝状を贈り、その功績を称えました。以下、受賞者お２人のコメントを掲載させていただきます。

▼10年前、一部署を任される師長として新しい職場に変わるということは、私にとって非常に大きな決断でした。▼当時を振り返ると、緊張と不安の連続で、迎え入れてくれた皆さんの期待に応えることで毎日必死だったように思います。▼〝私には何ができるのか〟〝私は何がしたいのか〟を自問自答しながらなんとかここまでやってきました。▼10年たった今は、素晴らしいスタッフと共に仕事ができることの充実感を感じています。▼また、支えてくれている先生方をはじめ、職員の皆様にも紙面を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。▼これからもどうぞよろしくお願いいたします。

河野久仁美

▼10年目を迎えて、大変なこともたくさんありましたが皆様に支えられながらの今日があります。▼今後とも頑張っていきますので、宜しくお願い致します。

塩田　裕美

透析療法と自己管理について講演する坪院長

透析テーマに坪院長が講演

7月3日 伊達地方腎友会が勉強会

会員らが聴講し理解深める

胆振西部の腎臓病透析患者でつくる伊達地方腎友会の勉強会が、去る7月3日開かれ、当クリニックの坪院長が透析をテーマに講演し、聴講した会員らが腎臓病と透析、腎臓の役割などについて理解を深めました。

勉強会は伊達市内のステーションホテルSANGAで開かれ、参加した聴講者が熱心に講演を聞き入り、腎機能が低下したときの諸症状、合併症のリスクについてなどを学びました。

坪院長は「透析療法と自己管理について」をテーマに講演、内容がより分かりやすくなるように図解やグラフなどを効果的に利用し、日常生活での留意点など、身近なところからの改善ポイントを提示、解説していました。

この勉強会は会員の相互理解を深め、組織・体制の強化を図る目的で数年ぶりに開催されました。講演後は交流会も行われ、腎臓病に適した献立の食事を楽しみ、理解を深め合いました。当院は地域医療の中核施設である自覚から、こういった取り組みに今後も積極的に協力していきます。

column コラム 待合室 No.38

駅

○…国鉄は生活の足でしたが民営化以降、鉄道からその感覚はすっかり失せてしまい、今では都市間交通の役割が多くを占める機関になった感が、色濃くなったようです。かつての駅には宅配便の機能もありました。小豆色の布団袋に入った寝具をリヤカーに載せ、運ぶ光景は春の風物詩でした。各駅には貨物を受け付ける窓口があり、重さを計量する大きな秤もありました。

○…民営化となった鉄道は経済の論理に従い、採算重視の観点から地方の鉄道が消え、生活の足の起点であった駅も次々と消えていきました。本道にとって鉄道は開拓のシンボルであり、「ヤマ」で採掘された黒いダイヤを「内地」に運ぶ鉄路だったのです。その重厚な鉄道は厳しい自然に立ち向かう道民には、大きな安心感の源となる象徴的存在であったはずです…。

○…2016年3月26日、北海道新幹線が開業し、エメラルドグリーンにランベンダーカラーのラインが鮮やかな「はやぶさ」が、新函館北斗駅から一路東京へ向け出発しました。経済効果に期待する人々や鉄道ファンが歓喜するなか、単純には喜べない道民がいたことと、高速鉄道時代が本道へも波及した時代の流れが交錯し、複雑な思いが筆者にはありました。この分岐点は間違いなく、在来線の強力な再編が始まることを意味します。

○…道新幹線が開業した同日に、小さな民宿が名寄市にオープンしました。この宿は旧・深名線、天塩弥生駅跡地に元鉄道マンが、かつての駅舎を再現し開業したものです。宿名はズバリ「民宿・天塩弥生駅」。この日の開業設定にはローカル線の合理化を打ち出す鉄道会社に対し、強い抗議の意が込められていました。

○…駅は公共交通としての役割だけではなく、各地域における求心的な空間でありました。修学旅行の発着点、進学・就職への出発点、それは故郷の出入り口であり、自分を待ち続けてくれる象徴的空間でもありました。そんな駅への想いを、小さな民宿が次代へ繋げようとしています。

○…道新幹線の開業日乗車率は61%、開業から翌月10日までは27%でした。新たに建設された新幹線駅から地元駅までには、まだまだ遠い距離感があるようです。3月26日の歓喜が醒めたいま、遠く感じるのは物理的距離感ではなく、長い間培った鉄道との関係と、その「在り方」が崩壊している現実感が生み出す〝隔たり〟です。

■発行：いぶりぶ発行委員会　伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401

■発 行/平成28年7月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行

※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。

●発行責任者：横井　浩